

令和6年度組織目標 知事協議概要

| | |
|-------|--|
| 部 局 名 | 子ども若者部 |
| 日 時 | 令和6年(2024年)4月19日(金) 13:00~13:45 |
| 場 所 | 特別会議室 |
| 出 席 者 | 知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監部長、次長、子ども若者政策・私学振興課長、子どもの学び育ち支援課長、子育て支援課長、子ども家庭支援課長 |

| 発言者 | 発言概要 |
|--------------|--|
| 総務部長 | フリースクールの実態把握調査はどのように実施されるのか。 |
| 子どもの学び育ち支援課長 | 施設の利用者と保護者にアンケート調査を行い、経月的に、どれくらい、どのように利用されているかをお聞きする。また、60~70の民間施設へのアンケート調査も行うと同時に、ヒアリング調査も行う。調査結果速報は、8月中にまとめられればと考えている。 |
| 総務部長 | 放課後児童クラブの人材確保はどのように取り組むか。 |
| 子育て支援課長 | 今年度の新規に求職者とのマッチング事業を行う。県から報償費を払いながら、インターンとして職場を体験し、知っていただき就職につなげていこうと考えている。 |
| 知事公室長 | 保育士の処遇改善は昔からの課題であるが、改善できる見通しがあるのか。 |
| 子育て支援課長 | 保育士の給与は、基本的には国が定める公定価格によるため、国に声を届けていきたい。昨年度の改定で人勤を含め5・2%アップしたが、他産業とは、まだ5万円ぐらい差がある。この10年で20%ぐらい上昇しており、国も問題意識を持っている。 |
| 総合企画部長 | 保育士のメンター制度は良い取り組みと思うが、上の世代がいないと成り立たない。年齢構成的に機能するのか。 |
| 子育て支援課長 | 保育士実態調査で保育士の経験年数の構成をみると、10年以上の方が約2割、5-10年の方が約2割であり、リーダー格の保育士はいる。これらの方に理解していただいて、メンターとして指導に当たっていただきたいと考えている。 |
| 総合企画部長 | 司令塔としての部の役割であるが、対象としての子どもは分かりやすいが、主権者としての子どもをどうとらえるか。 |
| 部長 | 司令塔というと、ほかの部に指令を出して動いてもらうようなイメージがあるが、それぞれの部局で、子どもの視点で仕事を見直してもらう必要がある。それには、部長の皆さんに働きかけるだけでなく、担当者を含めてディスカッションする必要がある。どのように議論していきけるか、考えは始めているところ。 |
| 総合企画部長 | 今やっている仕事で、20年後30年後の将来の大人にどう思われるか、という視点が必要。主権者としての子どもを考えると、無関係な施策はない。横串は大変になるが、取り組んでほしい。 |
| 大杉副知事 | 一番困っているのは、「学校」など制度を主語にまとめられてしまっている人たち。主語は「子ども」にして取り組んでほしい。今、子ども施策・子ども若者部を立ち上げた人たちは分かっているが、時間がたってもその思いが引き継がれるようにしてほしい。 |
| 大杉副知事 | 保育人材の確保であるが、自己研鑽の時間の確保が重要。幼稚園では確保できているが、保育園では園長の裁量になってしまいがち。自己研鑽の時間を確保することは、質の確保だけでなく人材確保にもつながる。その観点で、幼児期教育センターと連携し、うまく使ってほしい。 |
| 子育て支援課長 | 幼児期教育センターの研修においては、今年度から、保育所、認可外保育施設の方にも参加してもらっている。センターの指導員による指導など、連携しながら取り組みを進めていきたい。 |
| 江島副知事 | 4つのLをよろしくお願ひします。 |
| 江島副知事 | 「今後も保育士として働き続けたい保育人材の割合が56%」というのは、高いのか低いのか。やめる理由は何だろうか。 |
| 子育て支援課長 | 高いか低いかについては、ほかの業種等と比較していないのでわからないが、給与や職場環境に関するものが辞める理由として多い。 |
| 江島副知事 | 原因を突き止めながらの取り組みをお願いする |
| 江島副知事 | 滋賀県の教育課程には、「なんとかなの子」というのがたくさんある。土木でもできるといいな、と思っているが、教育サイドからすると難しいのだろうか。 |
| 部長 | 滋賀の教育の特徴として、体験を重視する点がある。現場の先生方も思いを持って取り組んでいるが、全部やるとなると負担が大きい。メニューがたくさんある中で適切なものを選べるようにして、現場に負担をかけないことが必要。 |
| 江島副知事 | 土木交通部など、4枚目のスライドの「そのほかの部局」にどのように働きかけるかが重要になってくる。 |
| 部長 | 健康医療福祉部・教育委員会・商工労働部については直接に関係するので記載しているが、そのほかの部局との連携も重要と考えている。 |
| 次長 | 部長・課長の目標が実現できるように、タイミングを逸せずフォローすることで、子どもや若者、市町、職員がそれぞれ施策の充実を確実に実感していただけるよう努めたい。 健康医療福祉部から分かれてきた部であるが、それが弊害だといわれないう、健康医療福祉分野との連携をこれまで以上に大切するとともに健福部の観点にとどまらず他部局との連携強化を一層進めたい。 4つのLであるが、個人的には5つめに「LOVE」敬愛をもって臨みたいと思っている。 |

三日月知事

新設の部であり、期待している。

4つのし、とても良い取り組み。

子ども若者政策・私学振興課では、滋賀誕生ありがとう事業や「すまいる・あくしょん」も気になる。

また、私学と公立学校の連携についても取り組んでほしい。

私は、全国知事会の子ども・子育て政策推進本部長を仰せつかっている。子ども基本条例など先駆的な取組については、各都道府県のいいところを集めて、そして、「見える」ように進めていこう。

市町との連携は重要。県が目立たなくてもいい。徹底的に市町を立てて進めていこう。

子どもの学び育ち課のフリースクールの調査については、わかりやすい説明で、スケジュールもしっかり考えられていると思った。

子育て支援課については、放課後児童クラブ等保育人材の確保は大事。また、産後ケアにも注力してもらいたい。

子ども家庭支援課については、ケアする人のケアに取り組んでほしい。ただ、センターと学園に閉じないように。開かれた滋賀県方式を考えてほしい。

いずれにしろたくさんありますが、頑張っていきましょう。